

研究主題「自然や動植物を大切に、すすんで自然環境を守ろうとする態度を 育てる道徳の時間—各教科等との関連を図った道徳の時間の構想—」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
足立区立寺地小学校 教諭 田口 陽子

I 研究のねらい

古来より人間は、生命のあるものに感謝し、自然と共生して生活してきた。自然に親しみ、動植物を愛護しながら、豊かな情操を育ててきたのである。ところが、近年では、生活が豊かになった反面、自然破壊やごみ問題、地球温暖化等の様々な問題が指摘され、児童一人一人の感性や心の問題まで及び、生き方にもかかわろうとしている。

小学校学習指導要領解説道徳編では、自然体験の著しい不足を指摘し、豊かな道徳性の育成のためには、生き物とのかかわりを深める体験が必要であるとしている。

また、中央教育審議会答申（平成8年）では、初等中等教育において、環境への理解を深め、大切にすることを育成する重要性を述べ、各教科等の主に体験活動の中で児童が気付いた道徳的価値の意味や大切さについて考えを深める道徳の時間を重視している。

そこで、各教科等との関連を明確にした上で、自然との触れ合いや動植物の飼育栽培活動等の体験活動から学んだことを道徳の時間に価値の自覚として深め、自然や動植物を大切にすることを自然環境をすすんで守っていこうとする実践的態度を育成することが必要であると考え、研究主題を設定した。

II 研究の内容と方法

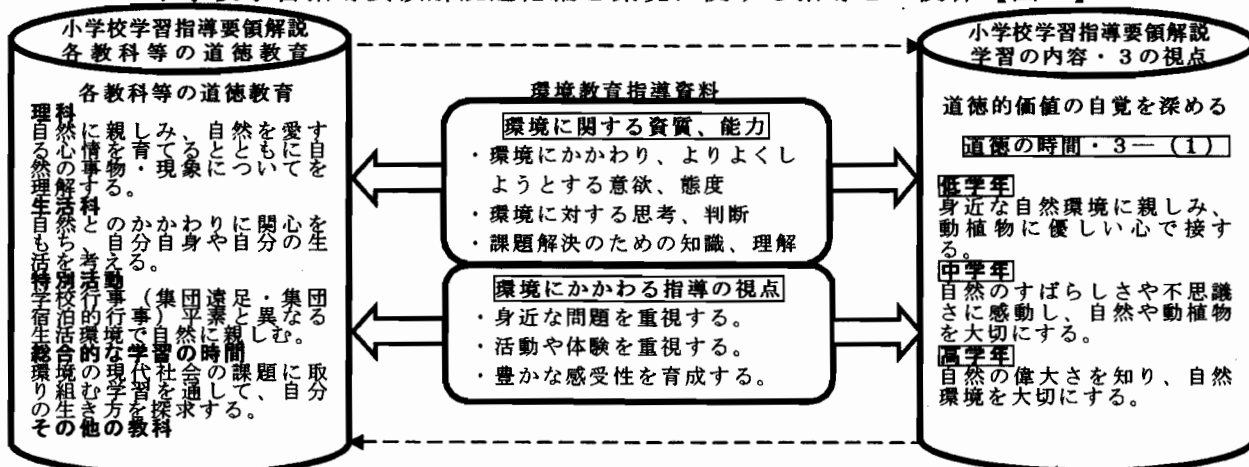
1 基礎研究

(1) 研究主題のとらえ方

道徳の時間は、学校教育全体で行う道徳教育を補充、深化、統合する時間であり、児童が自覚した道徳的価値を日常生活に主体的に生かすことが求められている。すすんで自然環境を守ろうとする態度の育成には、価値の自覚を内面的に深める道徳の時間の充実が重要といえる。

(2) 道徳の時間と環境に関する指導との関係

小学校学習指導要領解説道徳編と環境に関する指導との関係【図1】



各教科等の児童の身近な環境にかかわる体験活動等と道徳の時間の内容項目3—(1)の指導との関連を図ることにより、自然のすばらしさや動植物の生の営み等に感動する豊かな感受性を磨き、自然環境を主体的に守ろうとする意欲や態度を育成することが大切である。【図1】

「自然や動植物を大切に、すすんで自然環境を守ろうとする態度を育てる道徳の時間—各教科等との関連を図った道徳の時間の構想—」

(3) 道徳の時間と各教科等との関連

児童は、各教科等の学習において、自然環境に対する多様な気付きや発見をしている。各教科等で学んだ内容を道徳の時間に、価値の自覚として一層意識を深める。

また、道徳の時間に深められた価値の自覚をもとに、各教科等の学習や日常生活で実践されることを期待することができる。

そこで、内容項目3-(1)の道徳の時間と各教科等との関連の指導を構想することにより、自然や動植物を大切にし、すすんで自然環境を守ろうとする態度の育成を図ることとした。

2 実践研究

(1) 研究の視点

本研究では、自然や動植物を大切にし、自然環境を守ろうとする児童の育成を図るため、右記の3点に焦点を当て、研究を進めることとした。

- ① 「道徳の内容」項目3-(1)を重点とした年間指導計画の作成
- ② 道徳の時間と各教科等とを関連させた指導過程の構想と指導計画の作成
- ③ 道徳の時間の指導法の工夫

(2) 年間指導計画の作成

本研究では、内容項目3-(1)を年間指導計画に3主題(「生き物の環境」・「自然環境を大切に」・「自然環境を守る」)を配置する。2主題を各教科等と関連させて継続指導し、更に1主題を発展的指導として位置付けた。【補助資料1】

自然環境の保全にかかわる3-(1)年間指導計画(5年生)

月	4	7	10	1
主 題	生き物の環境	自然環境を大切に		自然環境を守る
ねらい				
資 料	土	ふるさとの川		
展開大要				
各教科等	理科	理科 総合的な学習の時間 特別活動		社会

3-(1)の主題のうち、6月と7月は、各教科等の学習と関連付けて指導する。1月は、発展的指導とする。

3主題のねらいとする価値は変わらないが、道徳的価値のより深い内面化を図るため、ねらいを焦点化する。

年間指導計画の手順

ア 各学年の道徳の時間の指導方針を明確にする。

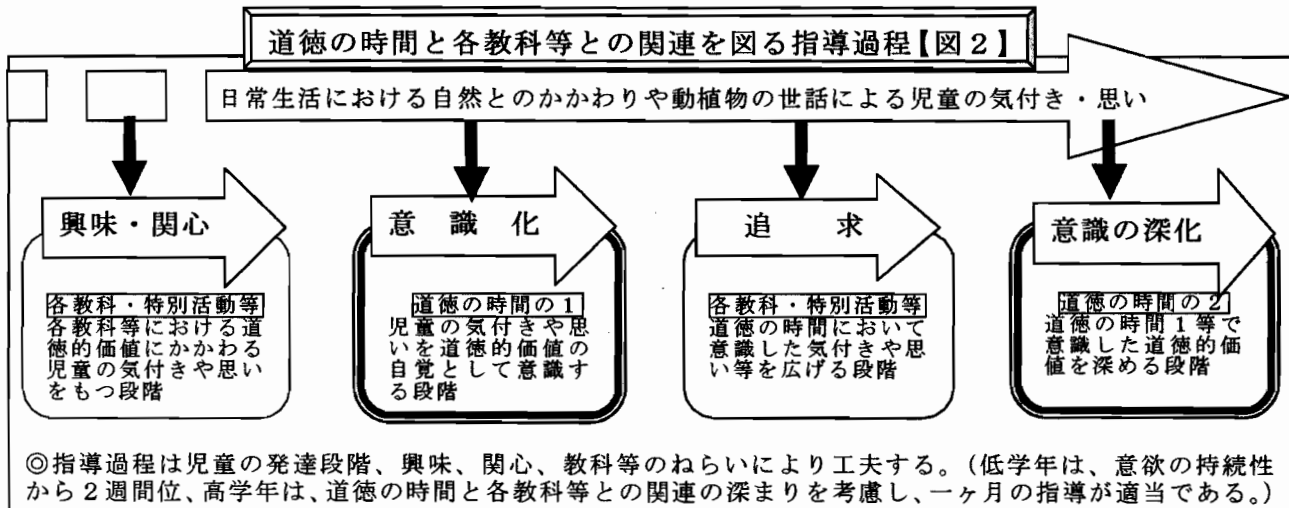
イ 重点とする内容項目を3-(1)とし、年間の時数配分を行う。

ウ 3-(1)の主題を構成し、系統的、発展的な指導を考える。

エ 適切な資料を選定し、道徳の時間の1時間のねらい、指導方法をまとめる。

オ 主題ごとに各教科等との関連を示す。

(3) 道徳に時間と各教科等との関連を図った指導過程の構想



本研究においては、道徳の時間と各教科等との指導を関連させた指導過程を構想した。①興味、関心②意識化③追求④意識の深化の4過程とし、道徳の時間と各教科等とを関連させ、自然や動植物、自然環境にかかわる児童の課題意識を継続させる指導を行った。

道徳の時間においては、各教科等や日常生活で培われた道徳的価値にかかわる児童の気付き、思い等を「道徳の時間1」で自分とのかかわりにおいて意識させ（道徳的価値の自覚）、その意識を各教科等の学習において追求していく。「道徳の時間2」において、各教科等や道徳の時間において追求した道徳的価値にかかわる児童の意識を更に深めていく。

こうした各教科等と道徳の時間との関連を図る方法は、児童の課題意識を追求する学習を取り入れることにより、各教科、道徳の時間等の話し合いが深まり、調べ学習や日常生活への広がりが増進される。また、3主題のねらいを焦点化して道徳の時間の指導を行うことにより、道徳的価値の深い内面化を図れること等が利点である。【図2】

以下、指導過程をもとに各教科等との関連を図った指導計画を構想した。【補助資料2】

指導計画（2年生） ○は教科の評価 ●は道徳との関連 指導計画作成上の留意点

過程	単元・主題	時	ねらい	評価
興味・関心	生活科 生き物と なかよし	1・2 /4	・ヤゴがプールの生息し、成長することから、ヤゴの生態に興味、関心を持ち、ヤゴとりを楽しむことができる。	○身近な自然への興味、関心をもつことができたか。 ●ヤゴを大切に思う気持ちをもつことができたか。
	生活科 生き物と なかよし	3 /4	・ヤゴは、どのようなえさを食べるのか、ヤゴの体のつくりはどうなっているのか、ヤゴに優しい飼いはどのようなものか等、児童の疑問や課題を明確にすることにより、ヤゴに親しみをもたせ、大切に育てる意欲をもたせる。	○ヤゴを大切に育てるために、どのような世話をしていけばよいか等を考えることができたか。 ●ヤゴを大切にすることを、身近な動植物にも優しく接する気持ちをもつことができたか。
意識化	道徳 生き物を大切に	1	・身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。	自然や動植物に優しく接する気持ちをもつことができたか。

ア 3-1の自然環境の保全にかかわる各教科等の学習内容を明確にする。

イ 自然環境の保全に関する児童の気付きや思いの自覚を促す。

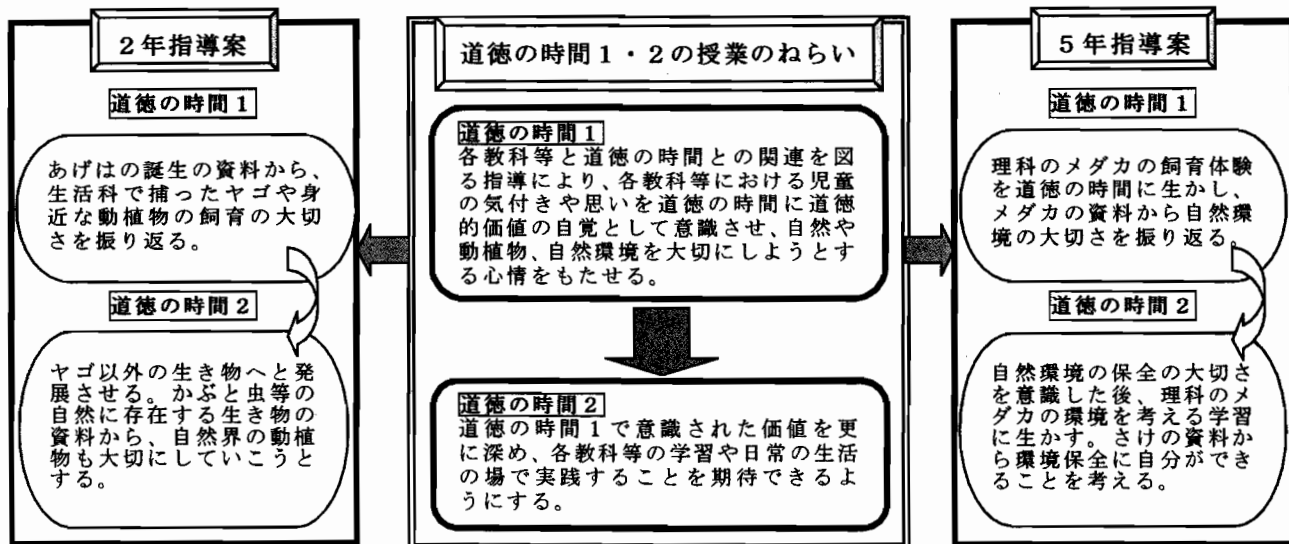
ウ 各教科等と道徳の時間との関連を図る。

エ 各教科等の学習内容と道徳の時間との関連を図る。

オ 自然環境の保全にかかわる児童の意識や態度の変容を評価する。

(4) 指導法の工夫

本研究においては、道徳の時間1では、自然や動植物、自然環境を大切にしようとする心情をねらいとした。道徳の時間2では、自然環境の保全をしようとする態度の育成にねらいを焦点化させ、道徳の時間1から2へ深まりのある系統的、発展的な指導を行った。【補助資料3】



Ⅲ 研究の結果と考察

検証授業の考察は、学級全体の変容と観察対象児童A、Bの記述を中心に分析を行った。

低学年の実態調査の観点	検証授業前	道徳の時間1の後	道徳の時間2の後
①動物を自分で世話をする	50%	73%	91%
②植物を自分で育てる	55%	55%	77%
③自然界の生き物を捕まえる	68%	50%	14%
④生き物の命を大切にする	41%	77%	91%
⑤植物の命を大切にする	36%	59%	82%
⑥自然と触れ合うことを好む	77%	77%	95%

低学年の児童は、自然の中での遊びを好み、動植物に関心が高い時期といえる。その反面、身近な動植物に興味が見られなくなると、大切に世話をしようとする意識の希薄さがみられた。

そこで、各教科等の学習において、身近な生き物の生命を感じさせ、親しみを感じさせる体験活動等を計画し、道徳の時間と関連付けた。その結果、道徳の時間1の検証授業後は、身近な動植物に親しみをもち、優しく接しようとする心情を高めることができた。更に、道徳の時間2の指導により、動植物に興味本意に育てるのではなく、動植物のことを考え、大切にしていこうとする態度の育成につながった。

2年生A児の学びの姿

自然に接したり、動植物を飼育したりした経験が少なく、興味本位な接し方をする傾向にある。

道徳の時間1後の実態

学校のヤゴの水かえを忘れてしまいました。死んだヤゴがかわいそうです。

ねらいにかかわる発問

クラスで飼っているヤゴに、どのような世話をしていますか。

道徳の時間2後の実態

ヤゴを家で大切に育てて、トンボにしました。今度はかぶと虫の世話をがんばりたいです。

ねらいにかかわる発問

自分に身近な自然や動物、植物をどのように大切にしていきたいと思えますか。

2年生B児の学びの姿

自然に親しんだり、動植物を飼育したりした経験が豊富で、興味、関心も多い。

道徳の時間1後の実態

がんばって育てたけど、ともぐいして、えさを食べませんでした。

道徳の時間2後の実態

昆虫などの生き物は、自然にいる方が幸せだから、捕りません。このまま生きてほしいです。

A児、B児ともに、道徳の時間1の学習を通して、自己の飼育態度を振り返ることができた。

また、A児は、道徳の時間2を通して、家で飼育したヤゴを大切にしたい体験を振り返ることにより、他の生き物をも慈しむ心情を獲得することができたと考えられる。B児は、自然界の生き物は、人間が飼育するより、自然に生かせる大切さに気付くことができた。【補助資料4】

なお、5年生の学級全体の変容と観察対象児D児の変容も同様に分析した。【補助資料5】

Ⅳ 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 年間指導計画に基づいた道徳の時間と各教科等との関連を図った指導を構想し、生活科、理科等における体験活動を生かした道徳の時間の指導を行ったことは、自然や動植物に親しみ、すすんで自然環境を守ろうとする実践的な態度の育成につながることができた。
- (2) 道徳の時間1と2のねらいを関連付けた発展的な指導過程を工夫し、道徳授業を実践することは、身近な自然や動植物に対する豊かな感受性を育て、自然環境を保全しようとする態度を育成することにつながることが分かった。

2 今後の課題

自然や動植物を大切にし、自然環境を保全する態度を継続した実践へとつなげるため、その他の各教科等と道徳の時間との関連を図った指導を構想していく必要がある。

「自然や動植物を大切に、すすんで自然環境を守ろうとする態度を育てる」の時間-各教科等との関連を図った道徳の時間の構想-

【補助資料1】 自然環境の保全にかかわる3-(1)の年間指導計画(5年生)

月	4	6	7	10	1
主 題	「環境美化」 1-(1)	「生き物の環境」 3-(1)	「自然を大切に」 3-(1)	「自分たちの手で」 4-(1)	「自然環境を守る」 3-(1)
ねらい	身の回りの生活環境をよくするに、整理整頓、美化する態度を育てる。	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にしようとする情を育てる。	自然の偉大さを知り、自然環境を守ろうとする気持ちを持つ。	身近な集団にすすんで参加し、主体的に責任を果す態度を育てる。	自然の偉大さを知り、自然環境を守ろうとする愛着を育てる。
資 料	「あとみよそわか」	「土」	「ふるさと川の川」	「やってよかったよ」	「失われゆく緑」
展 開 大 要	1 汚れた教室の絵を見て、話をう。2 資料を自分で読む。3 自分身の回りの美化の大切さを考える。4 説話を聞く。	1 荒川について話し合う。2 資料を読んで話し合う。3 自然環境を守ろうとして話し合う。4 自然環境を大切にする大切さを教師の話を聞く。	1 メダカの飼育について話し合う。2 資料を読んで話し合う。3 自然環境を保全するために話し合う。4 自然環境を保全するために話し合う。	1 地域活動の思い出を話す。2 資料を読んで話し合う。3 自分役割を返す。4 説話を聞く。	1 自然環境の破壊し何かが発表し合う。2 資料を読んで話し合う。3 自分身の回りの美化を話し合う。4 説話を聞く。
各教科等	理科 ・水の汚れ調べ 特別活動 ・地域美化活動	理科 ・メダカの環境 総合的な学習の時間 ・荒川の水質調査	理科 ・メダカの産卵 総合的な学習の時間 ・富士山の環境 特別活動 ・富士林間学園	特別活動 ・河川グリーン作戦 社会科 ・工業生産と公害 家庭科 ・清潔な住まい	社会科 ・住みよい環境 家庭科 ・ごみとリサイクル

【補助資料2】 指導計画(2年生)

指導計画(5年生) ○教科の評価 ●道徳との関連

過程	教科	単元	時数	ねらい	評価
興味・関心	生活科	生き物としなやかよし	1・2/4	プーにヤゴを育てる。ヤゴの成長をみる。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
	生活科	生き物としなやかよし	3/4	ヤゴの成長をみる。ヤゴの成長をみる。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
意識化	道徳の時間1	生き物を大切に	1	身近な生き物を大切に接する。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
追求	生活科	生き物としなやかよし	4/4	道徳の大切さを伝える。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
意識の深化	道徳の時間2	生き物の身になって	1	身近な生き物の成長をみる。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
興味・関心	理科	メダカの環境	1・2・3/8	メダカの成長をみる。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
意識化	道徳の時間1	生き物の環境	1	自然の偉大さを大切にする。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
追求	理科	メダカの環境	4・5/8	メダカの成長をみる。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
意識の深化	道徳の時間2	自然を大切に	1	自然の偉大さを大切にする。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
追求	総合	富士山の守り	4	富士山の自然を守る。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。
追求	特別活動	富士林間学園	8	富士山の自然を守る。	○ 自然の偉大さを大切にする気持ちを持つ。

2年生学習指導案・道徳の時間2 (主眼名・「生き物の身になって」、資料名・「0み一つのぼしよ」)	
1 生き物の世話をした経験とその気持ちを発表する。 ○ヤゴやあげは以外の生き物を飼ったことがあるか。 ・ハムスターを飼っている。かわいい。 ・かぶと虫を飼っていて、えさやりが大変だった。 ・セミを捕ったけどすぐ死んだ。	指導上の留意点 ◆ 学校で飼育しているヤゴやあげは以外の生き物についても考えさせ。 ◆ 生き物の世話をし、かわいさや楽しさを感じたことその他、大変だったことを発表させ、ねらいとする価値への方向付けをする。 生活科でやごの飼育の在り方を考え、飼育ケースに放したことをおさえておく。
2 「0み一つのぼしよ」を聴いて、話し合う。 ① 捕ったセミを逃がすという男の子の話を聞いて、けんじはどのくらい思っていたか。 ・逃がすなんてもったいない。 ・一匹くらい欲しい。 ・かぶと虫やくわがわが虫を捕ろう。 ② かぶと虫やくわがわが虫がたくさんいるのを見て、けんじはどんなことを考えましたか。 ・すごいな。 ・捕まえて帰ろうかな。 ・このままにしておくといいかな。 ③ けんじは、どんな気持ちから、「ぼく、もって帰らないことにした。」と言ったのでしょうか。 ・このままにしておくといいかな、虫のためになる。 ・男の子の言うことがよく分かった。	指導上の留意点 ◆ 男の子の話を聞いて、まだ速い時も、セミを大事にしようとする気持ちが主人公の心に芽生えてきていることに気付かせる。 ◆ 自然の中で虫たちの生き生きとした様子に感動し、男の子に言われたことの意味が分かっている主人公の気持ちに気付かせる。 ◆ 男の子の言動が主人公のけんじにも伝わったことを理解させ、自然界に住む生き物は、自然の環境に放すことが自然環境を守ることにつながることに気付かせる。 道徳の時間1で自覚したことや生活科においてヤゴを飼育ケースに放した体験を振り返り、自然や動物を大切にしようとする態度の育成につなげる。
3 動物物後し方を振り返る。 自然に親しんだり、動物を大切にしたりするためには、どんなこと大事にしていきたいか。 ・花や草がきれいでいいから採らないようにする。 ・虫がいたらそっとしておいて、逃がす。 ・トンボになるまで育てて、逃がす。 ・生き物に優しくして、自然をこわさない。	指導上の留意点 ◆ 世話をしてきたヤゴやあげはなどを含め、身近な動物とのかかわり方について大事にしていきたいことを考えさせる。 ◆ 昆虫や小動物だけでなく、自然や動物についても考えさせる。
4 教師の話を聞く。	教師自身の自然や動物とのかかわりに関する経験を話す。

2年生学習指導案・道徳の時間1 (主眼名・「生き物を大切に」、資料名・「元気でね、あげはくん」)	
1 あげはの飼育の様子を見せ、話し合う。 ○ あげはの飼育の様子を見せ、話し合う。 ・いも虫がきれいなチョウキョウになったのを見て、きれいだなと思うた。 ・さなぎはえさを食べないでじっとしてて、急にチョウキョウになっていく。	指導上の留意点 ◆ 学校で飼育しているあげはの幼虫について気付いたことを発表させ、ねらいとする価値への方向付けをする。 身近なあげはの飼育で気付いたことを発表させる。
2 資料「元気でね、あげはくん」を聴いて、話し合う。 ① さなぎから出てくるあげはを、息もしないで見ているとき、「わたし」はどんな気持ちでしたか。 ・がんばってさなぎから出てね。 ・もう少しだ、がんばれ。 ・チョウキョウになったら飛べよう。 ② やつと最後の足が出た時、「わたし」は、どんな気持ちでしたか。 ・おめでと。よかったです。 ・もうすぐ空を飛べるようになるよ。 ③ 「わたし」はどんな気持ちで、あげはにさよならしたのでしょうか。 ・やつと自由に空を飛びまわられるね。 ・あげはと一緒にいたいけれど広い所に放すね。	指導上の留意点 ◆ あげはが青虫の頃、さなぎになった時、さなぎから出ているところの絵や写真を見せ、大切に育ててきたことを押さえる。 ◆ 「わたし」があげはに話しかけるような吹き出しカードを用意し、「わたし」の気持ちを書かせる。 ◆ 寂しいけどあげはの気持ちに立って迷がしてやる優しい心に気付かせる。 あげはや自然界の身近な生き物を逃がした体験を踏まえ、考えを深めさせるようにする。
3 飼育しているヤゴや他の動物への接し方を振り返る。 ○ みんなが飼っているヤゴにどんな世話をしていますか。 ・できなかったことはありますか。ヤゴはどんな気持ちでしょう。 ・ヤゴの水かえを忘れていたやっています。 ・ほとんどヤゴの世話を忘れていた。 ・がんばって育てたけど共食いした。	指導上の留意点 ◆ 教室で飼っている身近な生き物であるヤゴの飼育の在り方を振り返らせる。 生活科のヤゴの飼育の在り方を考える学習につなげる。
4 教師の話を聞く。	教師自身の生き物に優しくした経験を話す。

